



明けましておめでとございます。皆さまには、希望あふれる輝かしい新年を健やかにお迎えのことと、お慶び申し上げます。昨年を振り返ってみますと、元日早々に能登半島地震が発生し、甚大な被害をもたらしました。改めて、この災害による犠牲者の方々に、衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。さらに、8月には、日向灘を震源とする地震を発端として、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が初めて発表されるなど、大規模災害は、どの地域においても、いつ起きてもおかしくない状況であるといえます。

また、近年は、気候変動により、線状降水帯が発生することも多く、毎年、各地で水害

が発生しています。幸いにも、本市では、昭和26年のルース台風以降、小瀬川が氾濫するような、甚大な被害をもたらす水害は発生していません。これは、先人たちが、大きな事業費と労力をかけて、小瀬川ダムや弥栄ダムを建設してくださっていることが大きな要因であると考えています。想定を超える規模で発生する自然災害を防ぐには、やはり莫大な費用と期間を要します。私は常々、完成までに多くの費用と時間を要する大きな事業であっても、あきらめず、30年、50年をかけても、一步一步、前進して、やり遂げることが大切だと申し上げてまいりました。あるべきまちの姿を想像し、そのためにやるべきことは、今後とも、ぶれることなく前に進めていきたいと考えています。

30年後、50年後を見据え 住んでよかったと思えるまちに

大竹市長 入山 欣郎



新年
二千二十五年



現在、市では、「小方地区のまちづくり基本構想」に基づき、道の駅整備やJR新駅の誘致など、新たなまちづくりに向けて動き出しています。このエリアには昨年、ユネスコの建築賞「ベルサイユ賞」において栄えある最優秀賞を受賞した下瀬美術館もあり、新駅設置が叶えば、利便性はもうろんのこと、まちの魅力のさらなる向上が期待されます。本事業は、防災対策と並び、市の魅力を高めるうえで、大変重要な事業です。市議会では、昨年、小方まちづくり特別委員会が発足しました。今後とも、市議会との対話を重ね、まちの30年先、50年先の姿を見据えながら、大竹のまちが、住みよい、住んでよかったと市民の皆さまに感じていただけるまちとなるよう、職員とともに、一歩ずつ取り組んでまいりたいと思います。

結びに、本年こそは、国内外で大きな災害がなく、皆さまにとって幸多き、穏やかな一年となりますよう、お祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。



謹賀
令和七年



改善・向上への新たな取り組みに チャレンジし、開かれた議会に

大竹市議会議長 北地 範久

新年、明けましておめでとございます。皆さまには、希望に満ちた晴れやかな日を迎えられることと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、市制施行70周年の節目を迎え、この喜びを皆さまと分かち合うことができました。ことを大変うれしく思います。あわせて、先人の皆さま方が築いてこられました数々のご功績に対し、改めて感謝と敬意の念を強くしたところでございます。

さて、新しい議会となり1年余りが経過し、議会活動もより精力的に展開しています。

昨年3月には、新たに「小方まちづくり特別委員会」を設置し、新駅設置を含む旧小方小・中学校跡地活用と周辺一帯のまちづくりにつ

いて、議会としても積極的に調査・研究し、議論を深めていくことといたしました。

近隣の道の駅やスポーツ複合施設などでのヒアリングや、官民連携による施設整備・運営などの仕組みを有識者から学び、議会全体として見識を深めました。小方地区のまちづくりが、大竹市全体のにぎわい創出に結実していくよう、議会としてもしっかり考察し、発信していきたいと考えています。

また、平成27年から実施の議会報告会は、新たな試みとして、市域で活動される団体の方々を対象に行いました。9会場に13団体、114人の参加をいただき、議案審議の内容など議会からの報告に加え、各団体が抱える不安や課題、まちづくりへの提言など、限ら

れた時間ではありましたが、幅広く意見を交わすことができ、大変、意義深い機会となりました。

皆さまの声を、どう市政に反映させていくのか。これが皆さまから負託をいただいた議員・議会の最も大切な役割です。これまで以上に議会のことを知ってもらい、関わりを持っていたらどうかという思いから、いま「議会のあり方調査研究特別委員会」において、真剣に議論を重ねています。

こうした議論をふまえ、改善・向上につながる新たな取り組みにチャレンジしながら、市民に開かれた議会として、皆さまの参加を推進し、信頼される議会となるよう、これからも活動してまいりますので、引き続き、市民の皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆さま方が多くの笑顔と幸せにあふれた1年を過ごされますよう、心よりご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。